

## 金沢地方裁判所委員会（第39回）議事概要

### 1 開催日時

令和5年2月7日（火）午後1時30分～午後3時30分

### 2 開催場所

金沢地方・家庭裁判所大会議室

### 3 出席者

大島広士委員、河崎恵委員、菊知充委員、高由紀委員、酒井和人委員、林俊之委員、向峠仁志委員、山門優委員、山下良平委員、吉田克久委員（五十音順）

（説明担当者）

長江民事首席書記官、藤田刑事首席書記官、瀬田地裁事務局長、乗地地裁事務局次長、本村地裁総務課長、七浦家裁総務課長、住川地裁総務課課長補佐

（事務担当者）

宮本地裁総務課課長補佐、田中家裁総務課課長補佐、北風地裁総務課文書係長

### 4 意見交換のテーマ

裁判所職員の採用広報について

### 5 進行

(1) 新任委員自己紹介

(2) 委員長選出

(3) 前回委員会における意見交換についての報告

(4) 裁判所からの概要説明

(5) 意見交換

発言の要旨は別紙のとおり

(6) 次回の意見交換テーマ

未定

(7) 次回開催日時

未定

(別紙)

意見交換における主な発言の要旨

【委員長】

委員の方々のこれまでの御経験や、現在所属されている組織の採用広報等について実状を御紹介いただきたい。

【委員】

検察庁では、20官署以上が参加する合同説明会に参加している。職種の魅力を伝えるために、若者には若者ということで、若い職員が説明会で経験談を話して興味を持っていただいている。ただ、公務員を目指す方は地元志向が強いため、全国異動がある当庁は採用を辞退されることもある。採用となるとなかなか厳しいというのが実状である。

【委員長】

検察庁では、SNSなどはどの程度利用しているか。

【委員】

ホームページに検察庁の仕事を紹介した動画などをアップしており、採用に向けた努力をしている。

【委員】

裁判所での採用を辞退される方はどのような理由によるものなのか。また、採用を辞退した上で具体的にどのようなところに行くのか。

【説明担当者】

他の公務職種である。具体的には、石川県や金沢市などの地方公共団体が多いという印象である。

【委員】

当社でも、セミナーなどを開いて参加者に声掛けをしている。また、インターンシップを通じて採用に至るケースもある。このため、最近重要視しているのはインターンシップであり、これを通じて入社した人の離職率はそれ以外と比べると少し低めである。インターンシップは、ミスマッチを防ぐという意味では重要であると思われる。

【委員】

裁判所のパンフレットを見ると理系出身者が少ないように思う。理系の学生はきちんとデータを取ることや、理論的に分析するのが得意なので、採用試験のハードルはありそうだが、そのような技能を持った理系人材がいたら良いと思う。

【委員長】

確かに文系出身者が多いが、デジタル化の流れの中で情報科学に精通する人材が必要となり、外部から採用しているというのが実状である。データ分析も裁判所では重要なので、理系人材というのは魅力的である。

【委員】

高校生ぐらいでなりたい職業が頭に浮かんでいる人もいると思われる。このため、早い時期からアプローチしていくことも必要ではないかと思う。

【委員】

医師の確保において、地域格差が極めて大きな問題となっている。これを是正するために都道府県が地域枠を作り、県が授業料の10パーセントほどを負担している。卒業後8年間は、地域やへき地に関わることになっており、大変うまくいっている。裁判所では、採用される場所に決まりがあって、それにより辞めるという傾向はあるのか。

【委員長】

県内では、金沢以外に小松、七尾、輪島及び珠洲に地方裁判所の支部や簡易裁判所があり、基本的に採用後は成長状況によって大きな庁や中規模の庁をローテーションしている。

【説明担当者】

採用後の異動や配置に関しては、本人の能力や家庭の事情なども考慮して決定している。

【委員】

やはり中高生がイメージしやすくなるためには、インターンシップが良いと思う。医学部の場合は高大接続教育システムがあり、高校生が大学の授業を受けて推薦入学につながるようになっているので、医師になるイメージがしやすく、地域に根ざした医療で頑張ってもらっている。

また、実習などで一緒に働くことで仕事が見えてくるので、裁判所も大学と組んで学生の単位取得につながると良いと思う。

【委員】

人材サービスでは、大学生の就職の手助けや新入社員の研修などもしているが、就職は家族の問題であり、合格したもの他へ行ってしまうというのは保護者の意向が強いように感じる。当大学の学生は公務員志向が強く、県庁などに入りたいという人が多い。

また、裁判所の採用試験についての認知度が低いのではないかと思うので、中高生のインターンシップなどを実施すれば認知度が上がると思う。

【委員】

県庁では、毎年8月に大学生・大学院生のインターンシップを行っている。石川県で

は、行政職員の他に保育士や土木、農林などの技術職員も採用しており、特に農林は石川県には林業専門の大学がないので採用が難しく、大学に直接求人を出している。石川県でも採用辞退に関して危機感を持っている。

【委員】

法曹が関わる職業紹介で言うと、中高生などを対象とした法曹に興味のある人向けのイベントが開かれているが、裁判所の職員となるとアプローチや認知度が少ないのではないかと思う。弁護士会では、この分野に興味のある高校生に、職業体験を通じて、実際に弁護士と一緒に行動して事件をリアルに見てもらっている。私も実際に高校生を受け入れたとき、いつでも裁判を傍聴できることを知らなかったのも、裁判所の仕事を知らない人が多いと思う。

【委員】

新聞業界は元気がなくなってきているというのが実情であり、どうやって新聞社としての影響力を向上していくかが課題となっている。最近、小中学生に配布されているタブレット端末で記事を読んでもらったり、会社や工場の見学をしてもらったり、記者が学校に出向いて新聞の作り方を教えたりするなどして新聞社の仕事を理解してもらっている。早い時期からインターンシップなどで知ってもらうのは重要だと思う。

【委員】

裁判所でもTwitterやInstagramなど色々利用しているのが新鮮だと感じたが、もう少し親しみやすい内容にしてはどうか。

【委員】

採用広報パンフレットの2次元コードの表示間隔が近く、読み込みたいものとは別のサイトを読み込んでしまう。見る側としては不便なのでデザインの変更が必要である。また、開いたものもそんなに面白くなく、パンフレットの内容についても、やりがいや伝えたいのは分かるが、今の若い人たちは楽しさを求めるので楽しさをアピールした方が良いと思う。

【委員】

YouTubeのチャンネル登録者数が500人と少なく、動画視聴回数を見てもあまり伸びているようには思えない。広報誌は立派だが、それを手に取るまでの方法を考えた方が良いと思う。

【委員】

裁判所はとても堅く怖いイメージがある。やりがいを持っているのは分かるが、もう少しゆるい感じが伝わると良いと思った。

【委員長】

本日は貴重な御意見をいただいた。一生懸命取り組んではいるが、改良可能なところのヒントをいただいたので、これらを踏まえて参考にしていきたい。